

親の会 だより

第94号

発行日：H30.7.6

発行

岩手県ことばを育む
親の会

会長：主演 友子

事務局

盛岡市立桜城小学校
きこえとことばの教室内

会員同士の連携を大切に

皆様の日頃のご支援に感謝申し上げます。

ことばの教室が設置されて五十年の月日が経ちました。時代の流れとともに変わる難言教育であります。私達親の会が目指すものには変わりありません。この教育を必要としている子ども達も「だれでも・いつでも」適切な教育を受けられるように活動していくことを考えます。そのために、「子どもを真ん中に、親と先生が両側から支えて三人四脚で進もう」を合言葉に親と先生が連携を強化して環境を築く事が私たちの役目でもあります。また、親の会の本来の目的である互いに悩みを出し合う場として親子合宿研修会、ブロック研修会があります。お陰様でどちらの研修会も「研究会」や「語る会」の皆様のご協力を仰ぎながらすすめることができています。新しい企画のブロック研修会も三年目になりました。各地区で開催することにより、たくさんの方々と交流を図る事が可能になりました。各ブロックも声もあげやすくなったと大変好評であることも分かりました。各ブロックからの課題等を拝見しますと、次世代を育てるための学習や、新しい会員への勉強会も必要と感じられました。今後も隔年の盛岡開催の総会の時には学習会を開催したいと考えています。

親の会への関わりは自分の子の課題や悩みを解決したいことが第一歩ですが、そこへの関わりの中で他の子への支援のあり方にも目が向き会員同士の連携の大切さを気づかされるものと考えます。会員同士の連携の心を大切に今後も活動していただけますよう皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

会長 主演 友子

《岩手県ことばを育む親の会 総会・学習会》

六月九日(土)いわて県民情報交流センターにおいて、平成三十年年度の県親の会総会・学習会が開催されました。今年度は、全二十八支部の代議員出席で、総参加者数七十五名となりました。

総会を開催する前に学習会を設定し、県教委 指導主事 五安城 正敏 先生より、近年における特別支援教育についてお話しいただきました。

また、総会の後には、ブロック毎に今年度のブロック研修会について相談し、各支部の交流をはかることができました。

総会

今年度の総会は、議長を遠野支部の北川祥樹支部長に、書記を越喜来小学校の関谷えり子先生にお願いして進めていただきました。

事務局より昨年度の活動経過報告・決算報告があり、今年度の活動方針・事業計画・予算案が提案され可決されました。

長期目標の中の「安心して通級できる体制の確立を図る」ことを達成していくため、教育委員会訪問や学校訪問を考えております。また、短期目標にある、「組織の充実を目指す」ため、来年度の親の会大会開催の紫波・矢巾支部訪問を予定しています。

また、ブロック研修会は、情報交換や学習会等、親の会や子育てについての理解を深めるような企画を開催していただいています。今年度から県北ブロックは、広域さと交通の便等により、A(久慈・洋野) B(二戸・一戸・軽米・九戸)の二つのブロックに分かれることになりました。



学 習 会

全国の現状をふまえ、岩手県の特別支援教育の現状について、岩手県教育委員会指導主事（特別支援担当） 五安城正敏（いなぎまさとし）先生よりお話いただきました。

「インクルーシブ教育システムの構築」の捉え方と「通級担当教員の定数化」についての考えとその流れなど、これからの通級指導教育に関する大事な情報を分かりやすく話していただきました。保護者も教員もこの状況を理解し、今後のよりよい指導の場として充実した環境を保つよう運動をしていかなければいけないと感じました。



《NPO法人全国ことばを育む会代表者研修会・総会》

六月二日（土）三日（日）に東京において開催されました。

研修会では、前全難言協事務局長である阿部厚二先生より『担当者の専門性を考える』と題してご講演をいただきました。内容は次の通りです。

一、専門性とは 二、全国基本調査からみた現状 三、全難言協の取り組み 四、私の話を… 五、もう一度全国の状況から 六、おわりに の順序でお話いただきました。

一番大事なことは自己肯定感の向上だと思っていること、そして、この教育の魅力伝えていくこと「子供を真ん中に親と教師が両側から支えて三人四脚で一步一步進もう」その実現が専門性だろうとお話でした。

総会では、二十九年度の活動及び会計監査報告のほか財務の改善としての地域親の会の会員増と会誌『ことば』の購読拡大、三十年度の活動計画及び、新役員が承認され、本会の主濱友子会長が理事（東北ブロック担当）に選任されました。全国の参加者から、岩手の親の会のチームワークの良さが、大変うらやましいとの声をたくさんいただきました。

《全国難聴児を持つ親の会代表者研修会・総会》

六月二十三・二十四日（土・日）に東京において開催されました。

講演が三つと有意義な研修会でした。

講演一 「独立法人国立特別支援教育総合研究所とは」「ことばの力を育てるかわり」 国立特別支援教育総合研究所 山本 晃 先生

講演二 「ことば コミュニケーションとは何か 自分はどう生きるか？」

宮城教育大学 准教授 松崎 丈 先生
講演三 「オーディトリバーバルセラピーとは」

声援隊 シュタイガー 知茶子 氏
特に印象に残ったことばを紹介します。

「天気予報には子どもたちが知ってほしい様々な日本語が扱われている。」

「小さい頃からの丁寧なコミュニケーションが子どもの言葉の力を育む。」

「親は子供の体験を共感的に傾聴し一緒に考えるが、子供が自分の人生に責任を持つ力を育てる。」

「九歳の壁はいきなりくるものではない。自分で思考できる学習言語が大事。」
総会の中で今年度の「べる」は補助がなくなったため、年一回の発行になりました。また、東北ブロックの参加者が集まり交流し、東北ブロックの取り組みについて全体にも紹介することができました。

県親の会からのインフォメーション

◎ブロック研修会が、県内八つのブロックに分かれて行われます。この活動を通して情報の共有や日頃の思いを話題にしての交流や学習会の開催など、各支部の活性化に役立ててください。研修の内容や話題等について県事務局にもお知らせください。

◎「第三十四回 幼児期の言語教育研修講座」

・日 時 平成三十年八月二十五日（土）

・会 場 岩手大学

※各支部親の会の案内文書配布のご協力に感謝申し上げます。